

ソーシャルワーカーとしてつないでいくこと ～「社会福祉士会」の歩みから～

兵庫県社会福祉士会 相談役 岡田 誠

2021. 3. 27 第23回総会 記念講演

始めに 「専門職、専門職業とは何か」 いくつかの視点

- ①科学的理論に基づく**専門の技術の体系**をもつものであること
- ②その技術を身につけるのには、一定の**教育と訓練**が必要であること
- ③専門職になるには、一定の試験に合格して**能力が実証**されなければならないこと
- ④専門職は、その行動の指針である**倫理綱領**を守ることによって統一性が保たれること
- ⑤専門職が提供するサービスは、私益でなく**公衆の福祉**に資するものでなければならないこと
- ⑥社会的に認知された**専門職団体**として組織化されていること

1. 前史～日本ソーシャルワーカー協会の歩みから～

【1960年代～70年代 高度経済成長期】

- ・「福祉三法」から「福祉六法」へ ・施設中心の福祉サービスの拡大とマンパワーの増大
- ・ソーシャルワーカー、現業職員の専門職化問題が検討課題

1. 1960年11月 日本ソーシャルワーカー協会の設立

- ・1958年 第9回国際社会事業会議・国際ソーシャルワーカー連盟のシンポジウムが東京で開催。同連盟の外圧で設立。
- ・支部活動の停滞、会費遅延により5年ほどで停止状態
- ・東北SW協会「ワーカー協会の火を消すな！」 筑前甚七氏

2. 1971年11月「社会福祉士法」制定試案

- 中央社会福祉審議会職員問題分科会起草委員会が起草。
- 「公私を貫く社会福祉従事者の資格要件を明らかにし、公務員職制の中に十分な妥当性をもって位置づけ、新たな給料表を設定し、職務内容にふさわしい処遇を与えるべき」
- 福祉事務所の各福祉司から施設職員、社協職員、保母など幅広い社会福祉従事者を対象職種とした。
- 職種ごとに社会福祉士を(一種・学士、修士)と(二種・短大、保育含む)に分けた。
- 専門職団体、学会、現場職員などの反対多く、1976年5月に白紙還元された。

3. 1983年11月 日本ソーシャルワーカー協会(JASW)の再建

- ・1986年に国際社会福祉会議と国際ソーシャルワーカー連盟、国際社会事業学校連盟の会議が開催されるため。
- ・準備会(委員長仲村優一氏)を経て再建。会長:阿部志郎氏
- ・明確な目標—倫理綱領の制定と専門職制度の確立

4. 1987年5月社会福祉士及び介護福祉士法の制定

- ・第1回社会福祉士国家試験(1989年3月) 合格者180名
 - ・実務経験(行政5年以上)合格者の推移
 - ・第1回75/180(41.7%)・第2回59/378(15.6%)
 - ・第3回30/528(5.7%)・第4回31/874(3.5%)
- ⇒第5・6回2.4%、第7回1.8%、第8回1.4%以降0.1~1.1
- ・2014年(26回)以降、4年経験+養成校(半年)になる。

5. 1990年4月28日日本ソーシャルワーカー協会社会福祉士部会の結成(部会長 西澤秀夫氏)

- ・第1回 社会福祉士全国研究集会(1989年12月16日)で「部会を結成して、日本ソーシャルワーカー協会に結集しよう!」と決議
- ・合格者が非常に少ない。・今後の見通し不明確で、有資格者のみの団体結成は困難と判断した。
- ・JASWは社会福祉士資格誕生の「生みの親」である。
- ・JASWは、ソーシャルワーカーの普遍的な倫理綱領を持つとともに、国際的にも認知された国内唯一の社会福祉専門団体である。
- ・資格の有無にとらわれずに、ソーシャルワーカー全体の融和のためには、内部の部会として包摂されたほうが良い。
- ・第1回合格者全員に対するアンケート調査によって、大多数の同意を得たこと。

2. 新しい独立した社会福祉士団体結成への模索

1. 社会福祉士を取り巻く環境の変化

①合格者の急増～国の福祉マンパワー確保政策～

・第1回-180第・2回-378・第3回-528・第4回-874 累計1,960人

②部会組織率の低下 ・約45%⇒ 第4回終了後 約15%

③日本ソーシャルワーカー協会の早期法人取得が困難。

2. 第3回社会福祉士全国研究集会(1991年11月 於:横浜)の「組織問題に関する決議」

①全社会福祉士を結集する法人格を持つ独自の組織として「社団法人日本社会福祉士協会」(仮称)を創設する。

②「会員、非会員を問わず、社会福祉士全体を代表し得るものとするよう配慮すること」を条件に社会福祉士部会に準備委員会の設立を委ねた。

3. 日本ソーシャルワーカー協会1992年度定期総会(4月25日)における「あり方検討委員会」報告書の採択

- ①現在の日本ソーシャルワーカー協会の倫理綱領を協会だけの倫理綱領に留めず、日本のソーシャルワーカー共通の倫理綱領とできるよう「ソーシャルワーカーの倫理綱領」とすること。
- ②社会福祉士が自主的に結成を検討している「社会福祉士協会」(仮称)については、積極的に支持し、JASW会員の社会福祉士が、ソーシャルワーカーとしての自覚と誇りを持って、推進していくことを期待している。
- ③長期的視野にたって将来を展望するとき、社会福祉士協会のメンバーをも包括して大同団結した新しいソーシャルワーカー協会ができることを期待する。事務局を引き受けてもよい。

3. 日本社会福祉士会の設立

1. 「新しい皮袋＝「日本社会福祉士会」の結成へ

- ①「社会福祉士懇談会」(1992年4月26日) 於: 文京区民センター
 - ・JASW非会員を含む59名参加
 - ・経過報告、新団体の目的の明確化、結成活動開始への諸準備 *名称を「Certified Social Worker」とする
 - ・アンケートの実施、設立準備募金(500万円)
 - ②第1回準備会(1992年5月24日)
 - ・第2回準備会(1992年7月4日)
 - ・第3回準備委員会(1992年9月19日)
 - ③都道府県代表者会議(1992年11月14日)
 - ・設立総会実行委員会 29名
 - ・会規約、支部規約、会費、支部還元金、役員選考など
- ・既に支部結成へ40都道府県が準備、加入申込 500名超える

2. 設立総会(1993年1月15日・16日)

東京・八王子市 大学セミナーハウス)

- ・会 長:吉村 靱生(大阪自彊館) 555名参加
- ・副会長:秋山 智久(大阪市立大学)
- ・副会長:西澤 秀夫(日本福祉教育専門学校)(事務局長)
- ・事務局:鉄道弘済会

3. 「設立宣言」(抜粋)

我々「社会福祉士」は、次のように願う。

- 我々は戦う、全ての人々により良き生活のために。
- 我々は憎む、非人間的な社会を。
- 我々は愛する、全てのかげがえのない人々を。
- 我々は援助する、謙虚な心と精一杯の努力を持って。

そのために我々は、明るい、さわやかな、実力を持った、柔軟で民主的な専門職集団を結成したいと心より願う。

4. 兵庫県社会福祉士会の歩みから

1. 兵庫社会福祉士会の結成まで(1993年のうごき)

①「懇親会」(2月22日)の開催「ニューミュンヘン神戸大使館」16名

②「支部設立準備会」結成するための集い(4月17日)

「神戸市勤労会館」 17名

③「近畿ブロック研修会」(7月4日)於:大阪 23名参加

④「神戸市若手職員・社会福祉士の集まり」(7月6日) 9名

⑧以降、計7回の準備会を開催する。

(主な意見)・「社会福祉士の情報交換の場」「社会的認知のためのソーシャルアクションをおこせるような会」を希望

⇒「受験講座の開催」「定例会・セミナーの開催」「機関誌の発行」へとつながる。

2. 日本社会福祉士会兵庫支部設立総会(1993年7月24日) 於:たちばな職員研修センター

① 30名あまり参加 ・予算50万円

・会長:岡田 誠(長田在宅福祉センター)

・副会長:福田和臣(愛心園) 折田忠温(きしろ荘)

・事務局長:芝拓哉(一羊園) 事務局次長:岩木久敏(県社協)

② 記念講演:秋山智久「人間の哀しさと美しさ」から

・望ましい社会福祉実践

1. 痛みを感じる実践—「相手の痛みを自分の痛みを感じる」

2. 騒々しくない実践—「なにもしない、立ち尽くす」

3. ほこらない実践—「プロは泣きごとを言わない」

4. さわやかな実践—「あらゆる実践は明るい」

5. 豊かな出会いの実践—「相手から学ぶ」

「今日は何を教えてくれるのかな？」

3. 事務局の変遷

①1993年7月

- ・設立当初、事務局次長の自宅を連絡先、私書箱を宝塚市内に
- ・その後、県福祉センターボランティアセンターに兵庫県介護福祉士会と共同で電話を設置。

②2005年5月

- ・春日野作業所を借り上げ、事務局機能を担う。

③2006年6月

- ・三宮事務所を借り上げ、事務局員2名体制。

④2011年1月

- ・建て替えた県福祉センターの現在地へ。

4. 阪神淡路大震災のこと

1) 日本社会福祉士会の活動(～1995年3月末)

- ・「ワークセンター」(宝塚市・芦屋市)の運営
- ・「長田区高齢者・障害者緊急支援ネットワーク」への参加
- ・社会福祉士の社会的認知が広がる

2) 支部に「阪神大震災復興対策本部」の設置(3月12日)

- ・被災した支部会員に義援金(100万円)の配布

3) 「大震災被災要援護者特別委員会「ほほえみ会」の活動

- ・西区の室谷第1仮設住宅訪問活動 看護師、臨床心理士と

4) 災害ボランティア活動の原点

- ・室谷第1仮設住宅での黒田裕子さんとの出会い。
- ・「孤独を生きる」「最後の一人まで見捨ててはいけない」

5) 「阪神大震災社会福祉専門職救援活動連絡会」の開催

- ・世話人 一兵庫医大病院 MSW小西 加保留氏
- ・1995年3月26日 「救援活動実践報告会」から発足。
- ・救援活動を行っている社会福祉関連団体(8団体)で組織
- ・救援活動報告、情報交換、連携の在り方
- ・他の応援引き上げ後の活動継続のあり方など議論

5. 第11回全国大会の開催(2003年6月)

①日本社会福祉士会設立10周年記念大会

- ・ポートピアホテルを会場に1,054名が参加
- ・阪神淡路大震災の支援に対するお礼の意味を込めた開催。
- ・大会テーマ 「地域における福祉実践の展開に向けて
—地域生活支援を担う社会福祉士の役割の推進—」

②兵庫特別分科会「震災を契機に社会福祉士の役割を考える」

6. 「近畿ブロック」のほどよい連携

①初代近畿ブロック理事 杉村和子・岡田誠

②研究・研修大会 第1回 1993.7.4 大阪からスタート

- ・兵庫⇒京都⇒滋賀⇒和歌山⇒奈良の順。5まわり目にある。

③実務担当者会議の実施 etc.

7. 一般社団法人兵庫県社会福祉士会へ

①2009年3月22日臨時総会で決議 2009年4月1日付

・日本社会福祉士会

1996年4月一般社団法人化、2012年4月 連合体組織に移行

2014年4月公益社団法人化

②歴代の会長(年度)

・岡田 誠 (1993年～2009年)

・土谷長子 (2010年～2013年)

・岡本和久 (2014年～2020年)

・谷口 弘 (2021年～現在)

終りに ～つなぐ ささえる まもる～

「社会福祉士の倫理綱領」前文から

「社会福祉の増進とサービス利用者の自己実現を目指す
専門職」(2005年倫理綱領)



「人々が**つながり**を実感できる社会への変革と**社会的包摂**の
実現を目指す専門職」(2020年倫理綱領)

・クライアントを孤立させない(社会的包摂)
「社会福祉士やソーシャルワーカーの得意とするところは社会的孤立や人間関係の貧困をなくすソーシャルサポートを開発し、提供できる能力にあるのではないかと思う」

(牧里每治 「ソーシャルワーク研究NO.173」巻頭言2018. 4)